

みしま

公民館報

平成
22年
3月

No.92

初春や 純白の里 光あり

一年を振り返って

今年も三島地区では、公民館行事、自治会行事、各種団体の自主活動など様々な取組みが行われました。ご協力頂いた、お一人おひとりに感謝申し上げますと共に、来年度も三島が活性化し元気な地区となるよう、皆様の更なるご協力を宜しくお願い致します。



公民館垣根剪定ボランティアと緑地帯ボランティア

館を利用されている小松の3組や各種グループで実施している公民館の植木剪定作業と各緑地帯（4箇所）のボランティアの皆さんによる年に3回の花の植栽や除草作業。頭が下がります。



広見川の夢講演会

1/31

夢の会が「音楽の楽しさを伝えたい」と題し、13回目の講演会を開催。講師にお迎えした千葉先生の巧みな話術で会場内に笑いが溢れました。



パソコン教室

6月・2月

テキストを見ながら真剣な表情でパソコンに立ち向う受講生の皆さん。今年度は、6月に9人、2月に14人の受講生が熱心に勉強されました。



9/6

三島体協ガラス拭き

三島体育協会では、毎年、運動会前に小学校の奉仕作業に合わせて、三島小学校体育館のガラス拭きを行っています。



8/30

とうろう流し

とうろう流し保存会の皆さんが企画、運営。大、小100基余りのとうろうを広見川に流して、新喪霊の御魂を鎮めると共に先祖を敬いました。



7/18

ふれあい夜市

「ちびっこONステージ」で「勇気の歌」を元気に歌う三島小の34人の児童達。そのほか宝探し、腕相撲大会、カラオケ大会と大変賑わいました。



10/11

三島地区球技大会

爽やかな秋の日曜日、有志が集いクロッケー・ソフトボール・レクバレーに汗を流しました。どの種目も白熱したプレーが続き、手に汗にぎる好ゲームが展開されました。



2/27

音楽とダンスを楽しむ集い

日吉公民館・三島青年団との共催。今年、三島からは地元のスターバンド「OYA」♪けんざいバンドをはじめ、古谷香先生ひきいるコーラスバンド「ハートフルアラ還」や憂鬱な月曜日（宿酔い）という名のロックバンド「ブルーマンディーズ」が出演。会場をおおいに沸せました。



11/ 8

戸祇山登山

今年で14年目になる登山。雨天順延となったこの日は、晴天に恵まれ、頂上から絶景を眺めながら、みんなでおいしくお弁当をほおばりました。



9/12

体育協会観月会

体育協会加盟チームでお月見会を実施。今年は雨天のため室内での開催となりましたが「剣道スポ少の子ども達」や「若人の会」の若者達も加わり、ゲームをしたり歌を歌ったり楽しいひと時が流れました。



1/15

AED講習会

町役場総務課主催の講習会。地元住民の方の出席もあり、救命救急士の指導の下、参加者らが真剣に講習を受けていました。



11/29

体育協会長杯 レクバレー大会

今大会も体協加盟チーム、商工会、のほか自治会連合チーム（議員、区長ら）も出場。9チーム中9位という成績でしたが、議員や区長さんらが大健闘を見せました。



今年の笹飾りは日吉公民館が夏祭りに使った物を譲り受けて利用。物を大切にすることで日吉と三島が繋がりました。



部落単位で踊りを披露。練習の成果が随所に表れていました。

三島夏祭り納涼大会

町補助金	93,000円
自治会助成金	300,000円
繰入金等	66,922円
組別各戸負担金等	554,400円
商工会寄附金	207,000円

で運営されました。

今年の夏祭りは、前日まで良い天気が続いていたにもかかわらず、当日にかぎって朝から雨が…。しかし、「夜には上がる」と大会役員が見事な判断をし、雨を背に受けながら、会場設営を完了。本番にはみなさんの「踊りたい」という気持ちが天に通じたのでしょうか、雨もすっかり上がり、夜空の下で全日程を無事終了する事ができました。



四大行事を振り返る



今年の演芸ステージは「宇和島チアリーディング」の皆さんに若さ溢れる素晴らしいパフォーマンスを披露していただきました。

今年も商工会の方々の協力により「ふるさとみしま」の火文字が三島の夜空に幻想的に浮かび上がりました。





「空飛ぶ長靴」一般の部
優勝者の増原さん



三島大運動会

町補助金 127,000円

自治会助成金 88,513円

で運営されました。

晴天に恵まれた9月20日(日)、盛大に大運動会が開催されました。樽正人さんの力強い選手宣誓の後いよいよ競技開始。選手の皆さんが一丸となって、秋空に負けないぐらい爽やかな汗を流しました。

ビールかコーラか、はたまた青汁か。くじを引くまで何が当たるか分からない。「ちよっと一杯」



丸太ひきの時間を競う「のこぎり名人」



ドンゴロスをはいてウサギ跳びをする「F1レース」の選手達。この後も様々な試練が待っています。みんな、最後まで頑張りました。



「綱引き」は下大野部落が優勝。

大会の最後を飾る「220オリレー」。部落の名誉をかけ全力で疾走する選手達。



大きなパンツをペアではき、呼吸を合わせて走り抜ける「デカパンでGO！」



敬老行事

町委託料 763,100円
 自治会助成金 78,392円
 で運営されました。

長きにわたり社会に貢献されてきたお年寄りに対する「地区上げての労いの会」が盛大に行われました。今年度は584人の対象者の内260人の方が出席。式典では米寿を迎えられた方12人のお年寄りに、甲岡町長から賞状と記念品が贈呈されました。

演芸ステージで練りひろげられる踊りや歌に聞き惚れ、見惚れる出席者の皆さん。どうぞ、これからもお元気で



「三島の浪曲師」東屋恋太郎さんによる浪花節。曲目は「野狐三次」味わいのある渋い咽を披露していただきました。



三島婦人会の「きよしのズンドコ節」。ユーモラスな演技で会場が一つに…。



久しぶりの登場となった「はげます会」の寸劇「梅川忠兵衛」的一幕。感情豊かで熱の入った演技に、会場からは割れんばかりの拍手がおこりました。





立派な野菜がずらりと並んだ、農林産物の展示コーナー。今年のお品総数は196点でした。



農協のバーベキューコーナー。沢山のお客様が美味しい豚肉に舌鼓。

艶やかに美しく踊る「ゆりの会」
熟練された踊りを披露していただきました。



農民祭・総合文化祭

J A関係寄附金	170,000円
南予森林組合助成金	15,000円
自治会助成金	56,319円

で運営されました。

延べ500人が集った「農民祭・総合文化祭」。演芸の部では、午前の小学生の学芸会に続き、午後は地区の芸能発表会。おなじみの保育所園児、清吟堂、ゆりの会、勝布美会、ダンスチーム「広蓮」のほか今年初登場となる「鬼北文楽」と「ハートフルアラ還」も出演。次々と見事な演技を披露して頂きました。また出店コーナーの農協のバーベキューや青年団のフライドポテト屋、婦人会バザー也大いに賑わいました。



趣味の作品がかわいらしく並ぶ展示コーナー



文化祭初登場の「鬼北文楽保存会」が古くて格式のある「三番叟」を上演。滑稽味溢れる人形の舞にお客様も大満足のようでした。

「詩吟」や「剣舞」を披露する「清吟堂吟友会広見支部」のみなさん。





小戸祇山に鎮座する古奇岩

皆さんは延川の小戸祇山中腹にお乳の神様が祀られているをご存知ですか。十一月のある晴れた日、延川の七人の男衆が、集会の度に話題に上っていた「乳神様」を目指しました。

鉦や鋸・鎌を手に、道なき道をとりあけながらやっこの思いで「乳神様」に逢えた瞬間「朝からの難儀さが、言いようのない喜びに変わった」と和田さん。松下弘さんが撮影した貴重な写真と、和田さんの探索記で、その神秘の姿を紹介します。

乳神様探索記

和田 宣（延川）

延川川奥地区の山中には、お乳の神様が祀つてあると云う。時代は明治・大正・昭和初期の頃のことであろうか。女の方が出産後母乳に恵まれず困って居られる時、苦しい時の神頼みとしてこの乳神様に願掛けをされていたとの話が伝わっていた。

区内に在住の最高齢婦人に聞いてみたところ、実際に参詣したら乳を授かったのでお礼参りに行くといつて「おはぎ」を携えて山を登って行かれた人を見かけたことがあったと聞いた。

平成二十一年十二月十三日延川地区内の有志七名は城下秀雄氏を先導役として事実を確かめようと現地参詣することにした。川奥林道沿いのヤハギ谷、松下弘氏所有林と水谷恒氏所有林との境界域を東に一五〇位登った位置だろうか、王子造林の境界杭が縦に並んでいた。

・ ロマン

私達も52年前に「乳神様」をお参りました。



松本 哲さん・康子さん
(小松)

25歳と22歳の時でした。当時、ミルクはとても高価で、1缶が3日働いてやっと買える時代。無事出産はしたけどお乳の出なかった私達夫婦に「乳神様」のことを教えてくれた人がありました。

話を聞くやいなやおおよその場所しか分からぬまま、私達は矢も楯も堪らず、険しい道を藁をも掴む思いで登りました。そして、何とか探し当てた乳神様に榊ともち米をお供えして帰ったのでした。

そのあと、1缶が終らない内に、お乳が出るようになり、本当に有難かった事を今でも忘れられません。



1時間余りをかけ、切り払い、あらゆるお供え物を和橋村さん

通称「小戸祇山（海拔七三四メートル）」の中腹と思われるが、南向に面したならかな斜面に約二平方メートルの用地が作ってあった。

前面には高さ四十メートル、幅二メートル位の石垣が築いてあり、その奥部に厚さ一、五メートル位の自然石と考える石が据えてあった。石の前面上部向かって左側部分に直径二十センチ、十五センチ位（現代ならEカップ？）のふくよかな女性の乳の形をした部分のはっきり見える。長年風雨に曝されてかなり風化されているが、ひび割れもしておらず、その状態で、石の前面には平たい石が置いてあって、鑄物と思われる薄い十五センチ正方位の鳥居が置いてあった。風化がひどく錆化が進んでいて賞翫（珍しい物としても）あそび大切にする（？）すると破損しそうな状態、後方の斜面には根元の直径が一メートル位の松。前方には神社の境内に植え付けたと云う意識の表れだろうか、榿が植え付けてあった（樹齢は七十〜八十年位？）。周囲四〜五メートル位の雑木等を切り払い、掃除をして、榊、茶、菓子、塩、酒、米等お

神秘・夢



帰り際「お騒がせしました」と「乳神様」に静かに手を合わす延川7人衆

写真左から城下秀雄氏・山口亀代徳氏・橋村利男氏・伊勢本正市氏・和田宣氏・入船秀一氏
撮影者：松下弘氏

掃除中に上部が欠けた小さな鳥居を発見。話のとおり確かに古くから祀られていたのだろう。



供え物を奉って七名全員で合掌し参拝。神様との出会いを喜び合って下山した。地元では白王神社の空地へ運び下ろして祀ってあげてはどうかと検討中とのことである。

見聞きした感想を少し……。▼石材に刻んだものではなく、たまたま珍石が見つかった数名か十数名が苦労して据え付けたものではないだろうか。▼何か字とか絵とか印が書いてあるのではないかと、セクハラの抵抗はあったものの周囲を手で入念に擦ってみたが、それらしきものは見つからなかった。▼石の存在状況からすると岩盤に刻んだものでもなく、石材に刻んだものとも思われず、自然石を置いたのではないだろうか。▼付近（百メートル四方）には奇形ができるような谷川もないことから、付近の山頂近くにあったものをあそこまで運んで来たのではないだろうか。▼あのよ

「年を重ねただけでは人は老いない。夢を失った時はじめて人は老いる」

という言葉をお聞きします。このページは三島地区在住の80歳以上の方の中から「これが元気の秘訣ですらえ、こしらえよる時がよいよ楽しいんよ」と、「生きがい」を見つけ、趣味の域を越える玄人裸足の作品を作っておられる、元気いっばいの腕達人なお年寄りを紹介します。

喜び 生きがい 再発見

竹細工 渡辺 修さん (八十一歳)

広見



しごいた竹できれいに編込まれた、竹細工独特のぬくもりのある作品。

- ① 林業指導員をしている時に仕事の中で、竹という素材に関心を持った。
- ② 退職前から始め、今年で三十年になる。
- ③ 竹の切り時期は十月頃が良いとされている。山に行けば材料が沢山ある。雪の中でも竹を切りに行く時はワクワクして寒さも忘れるほどだ。手先を使うことが好きで、自己流ながら時間を忘れて制作している。
- ④ 作品を人に見せて、実際に生活の中で利用してもらっているのを見ると嬉しく、また楽しみな。
- ⑤ 足腰の鍛錬を重ねて、午前中は時間の許すかぎり山に入って竹を切り、材料を集めて、色々な作品を作りたい。そして午後はクロッキーをして健康づくりをしたいと思う。

パンフフラワー 程内シゲ子さん (八十三歳)

川上



玄関に飾られている水仙の花。シゲ子さんのセンスの良さが伺えます。

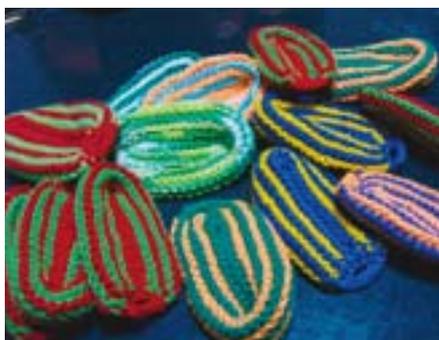
- ① 三角ぼうしへ行った時、パンフフラワーを初めて見て感動し、自分も作って見たいと思ひ、月二回の教室に通い始めた。
- ② 平成十年 七十二歳の時。
- ③ 教室の仲間には知らない人ばかりで、最初不安があったが、すぐに打ち解ける事ができた。花びらや葉っぱの形を作るのが難しいが、花を作ることが一番楽しく肩こりも忘れるほど。五、六年教室に通い、その後は自己流で花を観察して制作している。
- ④ 百点余りある作品全てに思い出があり愛しい。近所の皆さんや子供や孫達が喜んで見てくれる事や、何かのお礼にと作品をあげたりすると、とても喜んで頂き大切に頂いている事。
- ⑤ ゆっくり読書もしてみたいし、まだまだ色々な花も作ってみたい。そして何より元気でいたいと思う。

【質問】

- ① 始めたとききっかけは？
- ② いつ頃から始めたの？
- ③ 制作するにあたっての楽しみや工夫は？
- ④ 嬉しかったことは？
- ⑤ 今後は？

編物 奥浦 初子さん（八十六歳）

延川

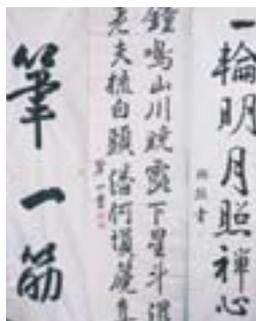


洗剤いらずの可愛いアクリルたわしがズラリ。器用な初子さんの心のこもった作品。

- ① 子どもの時から編物が好きだった。
- ② 四十年前頃から。
- ③ 編むことが楽しいし、面白い。居間に座ったら直ぐ編物をしている。編物をしていたら嫌な事や辛い事を忘れさせてくれる。ストレス解消になっている。バック細編みが一番難しかった。編物の本や毛糸は嫁や孫達がプレゼントしてくれて感謝している。家族のやさしさが嬉しい。
- ④ 自分の編んだベスト、帽子、セーター、カーディガン、アクリルたわし等、頼まれて編んだりしている。それをお土産代わりに人にあげると喜んでもらえるのが嬉しい。
- ⑤ 子供の時は小児喘息で、寒い時期は辛い毎日だった。家の中で過ごすことが多かった私は編物が好きになった。現在八十六歳で今年は米寿を迎える。今からも元気で毎日が送れるよう、大好きな編物をして過ごしたいと思う。

文化書道 松浦 賢一さん（八十歳）

小松



文は人なり
書は心画なり
文も書も共に
人格を表現する
瑞 蹊

- ① 平成六年に軽い脳梗塞になり入院をした。入院中に「手や頭を使うりハビリをしたらいいのでは」と医者にアドバイスを受け、新聞で文化書道の通信教育を知り始めた。
- ② 平成七年 六十五歳の時。
- ③ 行書の字が私は好き。楷書は難しく、今も努力を怠らないように書いている。一枚で上手く書ける時もあれば、何十枚書いても納得いかない時もある。そんな時は嫌になるが、妻が「始めたんやったら、最後までやりぬかん」と後押しをしてくれる。家族の協力で感謝だ。
- ④ 書いた書を先日掛軸にして、家を新築した娘にお祝いとして送った。また、表札も頼まれて書くことがある。玄関に自分の書いた表札が掛けてある事や娘がとても喜んでくれた事を幸せに思っている。
- ⑤ 平成十一年三段の時に師範免許を取得し、雅号の瑞蹊^{けいすい}を頂いた。現在六段、合格した時の喜びは最高で苦労が報われた瞬間だった。今後も白い紙に一筆一筆思いを込めて綴りたいと思う。

作文で愛媛県一に



広見ガーメントの研修生

遠く故郷（中国：山東省）を離れ、現在19人の研修生が広見ガーメントで縫製の技術を学んでいます。みなさんは地域行事にも積極的で「三島夏祭り」の時には色とりどりの浴衣を着て参加。輪の中に溶け込み楽しく踊っている姿を見ると、思わず拍手を送りたくなります。

この程開催された、「第一回 国際交流作文コンクール」で酒井駿君（久保）が、最優秀賞に選ばれました。

このコンクールは愛媛女子短期大学が「日本の未来を担う子供たちに、より異文化や、国際社会に興味を持ってもらいたい」と主催したもので愛媛県下から十六校が応募。今回、見事その頂点に輝いた駿君の作文と、その文中に書いている、広見ガーメントの研修生のみなさんを紹介します。

国際交流を終えて

広見中学校 三年 酒井 駿

僕は、小学校の頃から国際交流の授業を受けてきました。国際交流員の先生方は、みなさん明るく楽しい方々で、いつも楽しい授業をしてくれました。だから、国際交流は楽しいもので、英語をしっかりと勉強しなければいけないと思いました。



手馴れた手つきで
ミシンやアイロン
がけをする研修生



賞状を手に笑顔の酒井駿君



入賞者の作文が紹介されている冊子

中学生になって、国際交流の時間に国際交流員の先生と英語で会話が出来たりすると、ちょっと誇らしい気分になりました。

僕にとって、国際交流イコール英会話という方程式が出来上がっていました。

三年生になったある日、愛媛女子短期大学の中国人留学生との交流の時間がありました。初めての中国語は、日本語とも英語とも違っていて、発音もイントネーションも難しかったし、大学生と話すこともあまり機会がないので、最初は恥かしかつたけれど、うちとけていくにつれて、中国語も面白いと思いました。

その時、自分が感じていた世界がとても小さなものだった事に気がつきました。国際交流とは英語でするものではないのだと認識を新たにしました。

新たな認識で自分の周りを見直してみると、いろいろ身近な所で国際交流がなされている事に気づきました。

僕の家の近所には、縫製の研修生で中国から来ている女性が何人もいます。近所を散歩されることも多く、僕の祖父はある日、自分の畑の野菜をあげました。すると次の日、手作りの餃子をたくさん頂いたそうです。祖父は「你好」と「謝謝」しか知りません。研修生も日本語がわからないので、どんな会話をしたか不思議ですが、祖父も

きちんと国際交流をしていたのだと思うと、国際交流員の先生と会話をする事で満足していた自分が恥ずかしくなりました。中国人留学生との時間を経て、自分の中で、中国がより近い国に感じられる様になり、今まであまり関心のなかった中国に興味が出てきました。そして、反日感情の強い事を知りとても悲しくなりました。留学生の皆さんからは、そんな感情を感じなかったので、不思議に思い、考えてみました。留学生の皆さんは、日本に来て実際に日本で生活して日本人と交流しているから、日本人の良い所を感じてくれたのではないかと思います。

国際交流とはただ交流を楽しむものではないと、今は考えます。交流を通して理解し合う事が大事で、僕達の方からも、日本人の良い所をアピールしていけたらと思います。

歴史的背景から生まれている反日感情に、どんなアピールをすれば良いのかわからなければ、人として正しく生きる姿を示していくために、自分を高める努力をしようと思います。

国際交流を通じて外国人を理解していくと共に、自分の国―日本―についても考えていこうと思います。

未来をひっぱれ！ 三島っ子

— 戸祇の子学級 —

老人クラブをはじめ、地域の方々にあたたかく見守られながら「三島の宝」として日々成長していく子供達。三島っ子達は戸祇の子学級の中で、色々な行事を通して元気に遊び、学んでいます。

新しい時代を切り拓き、未来を支えて行くのは、子供達です。時代の変化に対応出来る心豊かでたくましく育っていくよう、家庭、学校、地域が連携し、子供達の為の良い環境づくりに協力していきましょう。



11/8 戸祇山登山

延期しての実施となりました。この日は最高の登山日和でした。



8/8・9 戸祇の子キャンプ

みんなで楽しく石碇の海で砂遊び



2/15 田舎饅頭・お茶作法教室

蒸し上がった饅頭を、正しい作法でお抹茶と一緒にいただきました。



7/6 カヌー教室

生涯教育課の職員からカヌーの説明を聞き、広見川で必死にパドルを漕ぎました。



6/22 竹とんぼ作り

昔の遊びをお年寄りが伝授。自分だけの竹とんぼを作りました。



10/5 いもたき&おはぎ&クロッケー大会

いもたき会終了後は老人クラブのおじいさん・おばあさんに日頃の感謝を込めてお礼の肩たたきをプレゼントしました。



今年度、ご協力を頂いた皆さん

開講式・クロッケー大会
老人クラブ役員
竹とんぼ作り
老人クラブ役員
カヌー教室
町生涯教育課職員
キャンプ
青年団・PTA
夏休みクロッケー大会
老人クラブ役員
いもたき&クロッケー
老人クラブ役員
松浦ムネコ・松下若恵
注連飾り作り
老人クラブ役員
饅頭作り・お茶作法教室
清家 鈴枝・小越香代子
茶道裏千家淡交会会員
閉講式・クロッケー大会
老人クラブ役員

卒業 おめでとう



戸祇の子学級では今年度、6名の修了生を送ることになりました。2年間の「楽しい思い出」を6人の修了生と校長先生、担任の横田先生、松本先生に綴っていただきましたので紹介します。

伊藤 樹莉
(小松)

2年間だったけどとても楽しかったです。

ホムにとって、戸祇の子学級は忘れられない思い出になりました。



松浦 優美

(小松)

2年間、ときの子学級をして特に楽しかったのは、おまんじゅう作りです。とてもいい思い出ができたのでよかったです。



菅川 悠平

(川上)

2年間戸祇の子学級ではお世話になりました。

いもたき交流会やクローカーはとてもいい思い出になりました。ありがとうございました。



棟田 悠斗

(大野)

ぼくは、5年と6年で戸祇の子学級をしました。最後はどんなことをするのか分かりませんでした。とても楽しかったです。



松浦 直介

(送川)

2年間、お世話になりました。ぼくは、カーブクローカーが楽しかったです。思い出ができました。



修了生の皆さんへ(公民館より)

6年前、真新しい制服とピカピカのランドセルを背負い、三島小学校の門をくぐりましたね。4月からは新生活がスタート。中学校へ行っても、友達を大切に、勉強に部活に頑張ってください。

渡邊 健斗

(小松)

この2年間は、とても楽しかったです。また、クローカーやまんじゅう作りなどがしたいです。本当に、お世話になりました。



温かい思い出を胸に僕達、私達は卒業します。

ありがとうございました。 修了生一同

都 明彦

(三島小学校)

今年も1年間、多くはやくわたり子と協力して学習の場を与えていただき、心より感謝しております。ありがとうございました。



横田 光彦

(6年担任)

クローカー、というスポーツが大好きな子と、思いがけないことに思いました。でも子ども達の上達の姿にとても驚かされます。皆さんの努力のおかげで、この修了生の瞬間、とても嬉しいです。ありがとうございました。



松本 和美

(6年担任)

クローカー、竹とんぼ作り、しめなわ作り、炭焼き体験、初めて体験することは、とても楽しかったです。いもたきとおはぎ、田舎まんじゅうは絶品です。



リレー
エッセイ

我が愛しの三島

No.29

三島に暮らす人々に、日頃の取り組みや「ふるさと・三島」に対する思いを語って頂くこのコーナー。今月は、菅加壽一さん（小松）に執筆して頂きました。

豊かな自然に恵まれた「三島」に暮らして七十七年。四日クラブ・営農クラブ、更に酪農組合・消防団幹部として活動してきた若い頃、年を重ね、禅画に出合い、達磨画に魅せられ、達磨画の虜になった。



私の禅画（達磨画）人生

一男六女の長男として農家に生まれ、高校を卒業しスナナリと農業に進んだ。主に和牛の飼育から酪農へ又和牛へと通算五十五年、昨年の八月に廃業。途中転職も考えたが、農業をしている両親の姿を見ていると「家業を継がなくては」と断念した。

六十代の後半に、生涯続けられる一芸は何かないかと考えている時に、達磨画と巡り合う。平成十三年一月、私の「禅画人生」が始まった。先ず原画の上に和紙を重ね、写し画をする。型は出来るが、滲みや線のブレが出る。次に原画を見ての写生となる。自由に描けるが、大きさの型、線の強弱、欠点だらけの変な達磨画になってしまう。一年余りで講座が終了し、終了証と雅号「智明」を頂いた。さあ、これからが本番だ。

平成十四年十一月、屋根から転落し右手の神経が麻痺し、三カ月の入院を余儀無くされた。「私の禅画人生もこれまでか。」と思った。思案の末に左手で描く特訓を始めた。この道十年、形は出来たが内容が今一だ。一枚の画はミスしても最後まで仕上げる。失敗し二枚目に挑戦。又新たな失敗が、気持ちの焦りか。明日はどんな画を描こうかと、毎日、一筆の達磨に「自分と三島」への思いを込めて向い合っている。合掌

三月号 表紙写真紹介

公民館だより九月号で三月号の表紙の写真を募集したところ、横山由美子さん（川上）が自宅から見た三島の雪景色を撮影し、届けて頂きました。

横山さんは写真歴十五年。愛媛新聞にも幾度も掲載されています。心を動かす物は何にでもレンズを向け、道端に咲いたどんな小さな草花も逃さず撮影する横山さん。今後もどんどん「ふるさと・三島」の美しさや活き活きさを写真に残して頂きたいものです。



「大空に浮かんだ冬の白い雲」届けて頂いた、もう1枚の雪景色

編集後記

「やれやれやつとできた」「何と難儀なことじゃった」十六ページの真白な紙に写真を撮り込んだり文をひねったり、完成するまで気が遠くなるような作業でした。

難産の末やつと生まれた三月号を、私以外にも永久保存版にしてくれる人が、一人でもいてくれるといいのになあ…。

美